

日本にもたくさんジオパークを!

佃 栄 吉¹⁾

最近、ジオパークに関する問い合わせが多くなってきました。多くの方がジオパークの可能性に期待されていることを示していると思います。このような状況を受け、ユネスコの支援しているジオパーク活動について、できるだけ正確かつ網羅的な情報をお伝えできるように本特集号を企画しました。「ジオパークの父」といわれるユネスコの元地球科学部長のW. Ederさんをはじめ、先進的活動を進めてこられたヨーロッパや中国からの報告も含まれています。また、日本のジオパークへの熱い期待も紹介されています。本特集号をご覧ください、ジオパーク活動へのご理解を深めていただければと存じます。

「日本ジオパーク委員会」の設立へ

日本では、昨年急逝されたGUPI (NPO地質情報整備・活用機構) の大矢 暁前会長や、岩松 暉現 GUPI会長の熱心な働きかけにより、2004年からジオパーク設立活動が始まりました。この間、日本地質学会ジオパーク設立推進委員会の活動、日本の地質百選の選定活動、GUPIによるジオパークに関連した3回のGEOFORUMの開催、などを通して、ジオパーク設立の意義が広く伝わり、自治体からも多くの関心が寄せられるようになり、経済産業省や国土交通省なども地域振興やツーリズム振興の観点から、ジオパークに言及するようになってきました。それを受けて日本地質学会において、学会に所属する関係機関の方々を集め、ジオパーク設立推進委員会で様々なことを議論してきましたが、今後のことを考えるとさらに大きな枠組みを組織しなければならないと考えています。即ち、ジオパークに理解のある多くの機関の代表者、学識経験者などから組織される「日本ジオパーク委員

会」を設立し、日本のジオパークの定義、日本国内のジオパークの認定、さらに世界ジオパークネットワークへの申請支援などを決められるようにしなければならないと考えています。もちろんこれを支える事務局機能が必要で、地質調査総合センターはそれを担うべく準備を進めています。幸い、ユネスコ国内委員会として、ユネスコ本部同様ジオパーク活動を強く支援することを明言いただきました。また、世界各国と同様に産総研地質調査総合センターがその中心となって活動するべきであるのご助言もいただきました。現在関連学会・関連省庁と協力し、ジオパーク申請の受け皿となる組織を立ち上げる準備を行っております。

地域の体制があってこそジオパーク

先日、国際会議でマレーシアの北部のランカウイ島を訪れる機会を得ました。島のあちこちにユネスコからのジオパーク視察団歓迎の垂れ幕があるのを目にしました。昨年、北アイルランドのベルファストで開かれたユネスコジオパーク国際会議でマレーシアからの代表団の積極的なプレゼンテーションがありましたので、相当進んでいるとは思っていましたが、すでに世界ジオパークへの登録までたどり着いている現実を見て、日本も早く進めなければと正直なところかなりの焦りを覚えました。しかし、関係者に聞くと、このLangkawi Geoparkが成立するまでの道のりはそう簡単ではなかったとのことでした。今日に至るまで、マレーシア地質学会や同地質調査所などの連携で地質遺産 (Geoheritage)、GEOFOREST (熱帯石灰岩地域の作るカルスト地形など) 等々を通した十数年に及ぶ地道な活動があったということでした。そして、マレーシアとしてランカウイに力を集中するようになったのが

1) 日本地質学会ジオパーク設立推進委員会委員長, 日本学術会議地球惑星科学委員国際対応分科会IYPE小委員会委員長, 地質調査総合センター代表

キーワード: ジオパーク, ユネスコ, 日本ジオパーク委員会

8年前とのことでした。

また、ベルファストの国際会議では日本として初めて代表団が参加し、私が世界ジオパークへの参加表明を行いました。私の発表は拙速な印象を与えたのか、ドイツのジオパーク責任者から、そう簡単にできるものではないとたしなめるような質問をいただきました。国家プロジェクトとして行われている中国は別にして、多くは地質遺産を大事にし、それを観光資源や教育素材として活用するなど、それぞれの地域の時間をかけた活動や人的ネットワークを基礎とした着実な積み重ねが必要と思います。

国際惑星地球年とジオパーク

2008年を国際惑星地球年 (International Year of Planet Earth : IYPE) とすることを国連が宣言し、2007年から2009年の3年間、世界の各地でその活動が行われることになっています。日本ではその活動の開始を祝うセレモニーとして、IYPEシンポジウム「国際惑星地球年2007-2009」開催宣言式典が去る1月22日に東京大学小柴ホールにて行われました。元文部大臣の有馬朗人氏を名誉実行委員長にいただき、関係機関、大学、学会、産業界からの100名あまりの皆様に参加を得て成功裏に終えることができました。このIYPEに関しては日本学術会議にIYPE小委員会を置いて、主な活動の方針を決め、各方面に参加を呼びかけています (<http://www.gsj.jp/iype/index.html>参照)。また、今後、新たに地学協会のもとで実行委員会体制を整備し、さらに活動を展開することになっています。IYPEの活動には10の科学プログラムとアウトリーチ活動がありますが、日本国内、海外ともすでに多くの魅力的な活動プランが提案されています。また、ジオパーク推進活動は日本における重要なアウト

リーチ活動として位置づけられていますので、3カ年のIYPE活動期間のうちいくつか日本から世界ジオパークネットワークに申請されるようになると大成功といえるでしょう。

地質の日とジオパーク

広く日本の地質に興味を持ってもらうことを願って、1876年にライマンが日本初の地質図「日本蝦夷地質要略之図」を出版した日、5月10日を「地質の日」とすることが関係機関、学会などの了解のもとで決まりました。野外に出て活動のできる日程、ゴールデンウィークや地球惑星科学連合大会とのつながりも考慮されたものです。今年から準備をして2008年の国際惑星地球年にあわせてスタートを切ることで合意されましたが、この「地質の日」の活動においても、是非ジオパーク活動と密接に取り組んでいただければと思っています。地学系博物館との合同企画や各地域でのジオツアーなど、おもしろい企画ができるのではないかと期待しています。

おわりに

地球科学、地質学のおもしろさやその意義を社会に伝える道具立てはそろってきました。今こそ関係者が力を合わせ、創意工夫で活動を開始するときです。是非ジオパークを成功させましょう。なお、本特集号をまとめるに当たり、多くの方々にご支援をいただきました。ここに記して感謝の意を表したいと思います。

TSUKUDA Eikichi (2007) : Let's establish geoparks in Japan!

<受付: 2007年4月27日>